

第4回西部緑地公園再整備構想検討委員会（書面開催） 検討委員からのご意見 ※50音順

（全般）

- 老朽化の建て替えに留まるのではなく、新しい価値をふんだんに盛り込んだ計画となっており、生まれ変わった公園は次世代へ彩り豊かな財産となる(伊藤委員)
- 前回構想骨子案からの改良案(今回構想骨子案)は非常に良くなったと評価。西部緑地公園の現状を分析した上で、その課題を整理し、今後の西部緑地公園の再整備方針をあらゆる方面からまとめている点を評価。特に、一般県民の意見(ニーズ)をアンケート調査等で拾い上げて、再整備方針の方向性に取り入れている点は高く評価。コンセプトの「心地よい緑と夢の空間」の「夢」については、もう少し夢のあるような内容が必要(高山委員)
- 園内の周回道路を外周、新産業展示館等の施設を内側にして、緑地空間を中央に集約するレイアウトは、コンセプトや空間イメージが明確になって良い(西村委員)
- 現在の状態より数段良い(町田委員)
- 前回よりも構想自体がアップデートされている(本田アドバイザー)
- 示された整備構想案について賛同する(津田オブザーバー)

（交通(周回道路、駐車場等)）

- 周回道路や駐車場について、全ての施設を道路横断せずに移動できる点は安全面、公園内での活動や憩いをより享受、活性化させる。ユニバーサルデザインの観点から出来る限り施設に隣接した駐車場を設けるなどの工夫もされている(青木委員)
- 周回道路は歩車分離の視点でも良いこと。一方で、公園外部(まち)と公園とのつながりという視点から、公園のアクティビティが周辺環境へ広がるような施策もあればより良い(浦橋委員)
- 周回道路を公園外周部に配置し、車道(周回道路)を渡ることなく、園内全施設を回遊できるようにした点は高く評価。今後より便利になるような車線数、使い方を検討する必要がある(例えば外側1車線、内側2車線とし、最内側を周回する園内バス車線、駐車場出入口口をラウンドアバウト化、車道左側端を自転車道など)。シャトルバス専用レーンの導入、シェアサイクルステーションの導入などは良い(高山委員)。
- 園内の交通集中対策については、周辺の道路等の対策も含めて検討すべき(西村委員)
- 周回道路を外周に配置する案は非常に良い。これは、天気の悪い日に子連れで屋内施設へ遊びに行くことを想定した場合、車から建物まで短い時間で安全に移動できる(長谷川委員)

（園内個別施設等）

- アーバンスポーツのエリアについて、緑地等に隣接することは、プレーをして楽しむ方の励みになるだけでなく、スポーツを観て楽しむことや視野にあるだけで賑わいにつながる(青木委員)
- 屋内こども遊戯施設について、遊具を充実させることは重要。野球場の外野席下に設置することは、空間の有効利用になる。また、野球場の外野席の一部を芝とし、公園緑地とつなげることは、公園での憩いの延長で野球選手の練習やトレーニングを眺めることができ、子ども達のみならず全ての県民が親近感の持てる公園になる(青木委員)
- アーバンスポーツエリアは、若者の利用が見込めることから、賑わいが周りに染み出していくような風景がつかれる。また、植栽の配置計画において、「スポーツをする人だけでなく観る人」に配慮した客席など配置計画が必要(浦橋委員)
- 多目的広場は多様な用途に活用できる「柔軟性」が大前提であるが、広場の一部を「目的性を持たせた空間」にすれば、より利用率が高まる(例えば民間連携でBBQができる施設や小さいキオスク、円形劇場席など)(浦橋委員)

第4回西部緑地公園再整備構想検討委員会（書面開催） 検討委員からのご意見 ※50音順

（園内個別施設等）

- 民間利便施設のボリュームが少し小さい印象がある。道路側からも施設内部を見ることができれば、賑わいがまちへ染み出す。子どもの遊び場やアーバンスポーツエリア周辺にも、カフェの出張所として小さいキオスクのような売店を設けると利便性がより高まる(浦橋委員)
- 公園内サインについては、例えばランニングコース距離表示サインに情報機能(応援メッセージの表示、プロアスリートのペース表示など)を持たせることでより楽しく親しみやすい公園になる。また、公園内サインは統一性(一人格)を持たる必要がある(浦橋委員)
- 石川らしさとして、地場産素材の使用や、石川県の伝統工芸技法をデザインや素材に使用すれば、地域と世界から愛される公園となる。また、雨や雪の日が多いことに関連して、通路屋根や建築物の庇をデザイン性に凝った特色あるものとするれば、石川県らしさを踏まえた特徴あるものとなる(浦橋委員)
- 石川らしさとして、石川県出身のスポーツ界のレジェンドの銅像やシンボルオブジェ、顕彰ミュージアム施設、スポーツラボがあれば観光促進やスポーツ振興にもつながる(浦橋委員)
- 陸上競技場についても、例えばランニングステーションや子ども一時預かり機能(託児所など)を導入すれば、公園内の利便性が高まる(浦橋委員)
- 緑地公園としての雰囲気を出するため、新たに建築する野球場や産業展示館等の配置計画と外観のデザインは、公園設計の専門家の見識を反映させて欲しい(鏑委員長)
- ランニングステーションでは、水遊びなどで濡れた子どもも着替えをできるようにすれば親は助かる(長谷川委員)
- 野球場外野スタンド下の屋内遊び場は、相応の広さが必要。また、斬新で本格的な遊具が必要。遊び場は、あまり規制(厳しい年齢制限や入場制限など)がないデザインで進めるべき(長谷川委員)
- 多目的広場や新産業展示館の中にも民間利便施設があると人の流れが分散されて良い(長谷川委員)

（その他）

- 事業化にあたっては、西部緑地公園が災害支援拠点等として果たした機能を検証しておく必要がある(青木委員)
- 西部緑地公園は、石川県災害時受援計画において、応援部隊の活動拠点候補地との位置づけがあるが、今回の震災を踏まえ、今後の再整備においてはそのことも意識すべき(高山委員)
- 県民の方々が、「私がつくった公園」という想いを持てる参加型の仕組みを検討されたい(浦橋委員)